



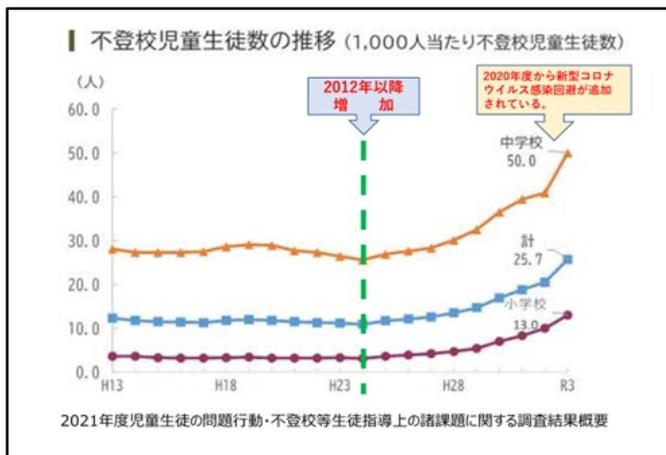
2023年6月23日 発行
公益財団法人山梨YMCA
〒400-0032
甲府市中央3-10-7
Tel.055-235-8543
fax.055-235-8553
www.yamanashiyymca.org
発行人 / 中田純子 編集人 / 風間奈月

山梨青年

YMCA NEWS

6月

年間聖句：何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。
—ペトロの手紙I 4章8節



(図1)



(図2)

2021年6月 スタート
山梨YMCA 高校生こころのサポート事業
苦戦している高校生のための

こころからだ
ココカラゼミ

毎週火曜日 17:00~19:00
山梨YMCA グローバル
コミュニティセンター

(図3)

ココカラゼミ

* 登録者 1名 (2023年3月現在)
* 職員数 2名

ストレスマネジメント

動作法を用いた学習 ↑

今年度は新しい教室が与えられました。

(図4)

山梨YMCAの中高校生支援

チャイルドケア事業部 統括ディレクター 土肥 満 (学校心理士)



現在、学校を取り巻く課題として、不登校、いじめ、暴力行為、子どもの貧困などが挙げられます。これまでも、これらの課題に対して様々な対策が講じられてきましたが、一向に減少していません。特に、深刻なのは「不登校」の課題で、文部科学省の調査によると、2021年度では、全国の中学生のうち約5%の生徒が不登校(年間30日以上)の長期欠席に陥っています。また、少子化で児童生徒数が減少する中、2012年度以降9年連続で増加していることも明らかになりました。(図1)

また、発達障害を抱えて、学校生活に苦戦している子どもたちも多くなってきています。(図2)

そこで、山梨YMCAでは2019年から、これらの苦戦している中高生への支援の在り方を検討し、2021年6月には、中高生を対象とした放課後等デイサービス「きらきらプラス」を開設し、さらに、同時期に、本館において高校生こころのサポート事業として「ココカラゼミ」(毎週火曜日17:00~19:00)を開始しました。(図3)ここでは、苦戦している高校生の交流の場としての居場所を提供したり、独自に開発した「ココカラプログラム」(こころを健康に保つための様々な学び)を行ったりしています。(図4)

今年度からは、この春開校した山梨英和高等学校通信制「グレイスコース」と連携して、ココカラゼミやYMCAでのボランティア活動に参加することで、学校の単位取得につながるという新しい取り組みも行っています。

ぜひ、興味・関心のある方は、お問い合わせください。相談・体験も大歓迎です。

(山梨YMCA 教育心理研究所 070-3953-0311 担当:土肥満)

総主事コラム

中田 純子

「天の恵みに感謝」

6月10日（土）第25回国際チャリティーランを開催しました。

3月17日に第1回実行委員会を開催し、5回の委員会を重ね準備を整えてきました。前日は、台風の影響もあり雨の一日となっていました。明日の天気を案じて参加関係者から電話の問い合わせが数件あったところ、電話を受けた職員は皆「失敗しませんから」というテレビドラマの名セリフのように「明日は実施いたします。これまでのチャリティーランで雨が降ったことは一度もありませんから。」とそれぞれが同じ返事をしていました。これまで25回開催した中で、中止は一度もない事実がありますが、この根拠のない自信に満ち溢れたスタッフを目の前にして誇らしく頼もしさをおぼえた程でした。

昨年は集合時間の7時半ごろから本降りの雨となり、総主事として判断を委ねられるあわやの場面がありましたが、準備している間に雨が小雨となり、開会式が始まると雲の隙間から一筋の光が差し込み、これこそが神様

からの贈り物であると、喜びを隠せなかったのを記憶しております。今年は早朝から実施と断言できるほどの天気となり、これまでのスタッフの電話対応に感謝するとともに、神様からの贈り物にほっと胸をなでおろしました。

コロナ禍の中、会員のみ参加のチャリティーランを実施してきましたが、今年度はコロナ以前の協議内容を目指し議論され「融合」で実施と決定し、0才からの宝拾い、リレー形式の小学校低学年の部、小学校高学年の部の実施、大人の部は以前の競技内容に戻し1.1kmを走るリアルランとして再開しました。困難の中から生まれた新しい形の山梨YMCAチャリティーランに「FORALL」が表現され、開催できましたことに感謝申し上げます。また、会場部、競技部として協力してくださったワイズメンズクラブ、メネットの皆様にも感謝いたします。協賛企業、団体、大学、高等学校、チアダンスチーム、フライングディスク協会の皆様へも深く感謝いたします。そして、子ども達へのサポートに始まり、運営に協力してくれたスタッフにも感謝いたします。

次回、第26回の開催に向けて、神様の豊かな恵みに守られるように、祈りの時を守りたいと思います。

第25回山梨YMCA国際・チャリティーラン



実行委員長の松本公夫氏の挨拶

選手宣誓



幼児の部



低学年の部



高学年の部



2023年度のチャリティーランは、天気にも恵まれ、コロナ禍以前の姿に戻ったと感じられました。

山梨YMCAチアダンススクールの子もたちによる発表や、チアアップやまなし☆シャイン☆、山梨学院大学ダンス部の皆様にもご協力をいただき、場を明るく盛り上げていただきました。

山梨県のゆるキャラ「武田菱丸くん」も大人気でした！

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区大会in甲府

6月3日～4日には、ここ山梨にて第26回ワイズメンズクラブ国際協会東日本区大会が開催されました。リアルでの開催は4年ぶりとなり、多くのワイズメンズクラブのメンバーが集結されました。

総会から始まり、歓迎式典では山梨英和中学・高等学校の聖歌隊によるハンドベルの演奏が行われました。久しぶりに画面越しではなく、お会いし触れ合うことの喜びをかみしめながらの会でした。そこでは、山梨YMCAを代表して3名のリーダーが、ワイズメンズクラブの方からの支援によって、体験、経験できたことの発表を行いました。緊張しながらの発表にも、皆さんよりたくさんのお褒めの言葉をいただき、山梨YMCAは、ワイズメンズクラブの方々の支えにより成り立っていることを実感しました。参加された各ワイズメンズクラブの方より、「大成功だね!」「歌もあり、とてもいい大会だったね。」とお褒めの言葉をいただきました。皆さんの活気ある二日間に同行することができ、私自身も今後の活力をいただきました。ありがとうございました。(平賀 佳雅)



サステナキャンプを行いました！



2023年3月30日～4月1日、SDGsをテーマにしたキャンプであるサステナキャンプを開催しました。小学1年生から小学6年生36名が参加し、廃油キャンドルづくりやウクライナの方によるアートワークショップ、ほうとうづくりなど様々なアクティビティに挑戦しました。このキャンプは、あそびとSDGsのつながりが重要であると考え、ユースリーダー会がプログラムの企画に携わり、「あそんでいると思ったら『実は』学んでいた」といった体験をしてもらうことを目指しました。

おうちの人のそばを離れ、初めて会った友達と見知らぬ場所で3日間も、生活を共にすることはメンバーにとって、とってもチャレンジなことだと思います。しかし、そのチャレンジに挑戦することや乗り越えることでしか得られない体験や思い出、交わりもあったことと思います。集団での生活では、自分の意見が全て通るわけではありません。時には、友達の意見に耳を傾けることも必要です。一人ぼっちで寂しそうにしているメンバーがいたら、手を差し伸べてあげることも必要かもしれません。3日間にわたるすべての生活やプログラムを通して、キャンプに参加をしている皆で活動を進めていく姿は、何よりもSDGsで誓われている「誰一人取り残さない (leave one behind)」の実践であったと感じます。



サステナキャンプではどのようなアクティビティが行われ、そこにはどのような意味が込められていたのかについては、右のQRコードより「サステナキャンプCamp Report」をご覧ください。メンバーの様子とともに、活動を報告しております。

結びに、キャンプの開催にご支援をいただいたワイズ・YMCA パートナーシップ検討委員会様に深く御礼申し上げます。(菊池 央人)



野の花保育園 花の日礼拝・訪問



様々な色を楽しませてくれるあじさいの季節となりました。あじさいだけでなく、いろいろな花々に囲まれながら生活している子どもたちです。そして笑顔も泣き顔も花に負けにくいくらい素敵な子どもたちです。6月12日に、みんなで花の日の礼拝をしました。私たちが直接水やりなどをできない野の花々も、神様が守って育ててくださっていることに感謝し、命あるものへの大切な思いを聞きました。まだ言葉での理解が難しい子どもたちもいますが、共にこの時を過ごすことができうれしかったです。15日には「オリーブの木」の利用者さんやお散歩などの際に見守って下さっている近隣の方に、賛美歌を歌ってみんなで作ったカードをお届けしました。

(浅野 聖子)

【花の日・子どもの日の由来】・・・1856年アメリカのレオナード牧師が、子どもたちが神様を信じイエスさまに従って生きていけるように、両親と一緒に神様をお祈りする日として、6月第2日曜日に特別な礼拝を行ったのが始まりです。少し遅れて1870年にマサチューセッツ州ローエル市の牧師が「シャロンのバラの日」と名付けて「花と子ども中心の礼拝」が捧げられました。子どもたちが花のようにすくすく育つことを願って祝福を祈った、花の日礼拝と同じ目的を持っていたので、この日を花の日、子どもの日としてキリスト教の教会や幼稚園等で礼拝が行われる



オリーブの木

「ぶどうの木」の閉所に伴い、ご利用者様やスタッフが「オリーブの木」に移ってきてくださいました。女性の利用者様も増え、賑やかにそして明るくなりました。女性の利用者様の中には、お庭の花を持ってきてくださる方もおり、一層華やかな「オリーブの木」になっています。また、「ぶどうの木」の皆様をお迎えするにあたり増築もしていただき、少しゆったりと過ごしていただいております。

コロナウイルスへの規制も緩和されてきている中、バラ園へ出かけたりしました。春の陽気のように、穏やかな時間を過ごしていただけるよう、お手伝いさせていただきます。(中澤かおる)



表紙の写真から

2021年6月 スタート
山梨YMCA 高校生こころのサポート事業
苦戦している高校生のための
こころとからだ
ココカラゼミ

毎週火曜日 17:00~19:00
山梨YMCA グローバル
コミュニティセンター

「ココカラゼミ」を始めて、3年目を迎えます。「ココカラ」のネーミングは、「こころとからだ」という意味と、「ここから（この場所）から一歩前に」という意味を掛け合わせたものです。今年から、グランド奥にある「みずがきの家」の2階に新しい教室ができ、そこで活動しています。火曜日の夕方5時から、ぜひ来てください。(土肥 満)